



# 学校だより

2月号

平成30年 2月 1日

さいたま市立植竹小学校

〒331-0813 さいたま市北区植竹町2-1

TEL 048-663-7627

FAX 048-663-9885

E-mail uetake-e@saitama-city.ed.jp

児童数 1年124名・2年139名・3年121名・4年134名・5年124名・6年138名・7組17名 計797名

学校教育目標

○すすんでまなぶ子

○たすけあう子

○げんきな子

## 人との出会いを大切に

校長 鯨井 幹夫

正門脇駐車場のところの梅の花が、春を告げています。先月は寒波が押し寄せ大雪にも見舞われましたが、子どもたちに事故もなくほっとしているところです。また、インフルエンザによる学級閉鎖も余儀なくされる状況でもありました。2月は、「節分」「立春」と続き、暦の上では春となりますが、朝の寒さや冷え込みはまだまだ続きそうです。インフルエンザのピークもこれからであり、まだまだ油断できません。学校でも予防について指導しますが、ご家庭でもご留意くださいますようお願いいたします。



さて、今年度も終わりが近づいてきました。子どもたちは、この一年の間に多くの人と出会い、たくさんのことを学んできたはずで、家族や親せき、ご近所の大人たち、クラスや習い事の友だち、担任や習い事の先生、そうした人たちと日々接する中で、自分の世界を少しずつ広げているにちががありません。ときには人生に影響を与えたり、粹な味付けをしたりする出会いもあることでしょう。たとえば、次のような例もあります。

勉強に自信をもてなかった子どもがいました。図工の時間に粘土細工に夢中になり、自分でもよくできたなあと悦に入っていたとき、先生から「これは素晴らしいなあ。○○の才能を感じるよ。」と褒められたのです。そのときの「才能」という言葉が何だか自分の「宝物」のように感じたそうです。それ以来、自分の能力に自分で気が付いていないだけかもしれないと思い、勉強も頑張るようになったということです。

音楽の苦手な子どもがいました。中学校の授業で合唱をしているとき、音楽専科の先生から「○○くん、音痴ねえ。」と言われてしまったそうです。恥ずかしいやら悔しいやら、ますます音楽嫌いになりかけていたとき、同じ音楽の授業でギターに出会い、先生が弾くギターの音色に魅せられてしまったということでした。それ以来ギターに熱中し、高校生のときはフォークソングに夢中になり、大学生のときにはNHKのど自慢にギターを持って出場したそうです。のど自慢に選ばれたくらいだから、本当の音痴ではなかったのかもしれませんが。その後、教員を目指していた○○くんは、先生になってからも担任した子どもたちと一緒に、ギター片手に歌を歌い続けたということです。

正直、国語が嫌いな子どもがいました。高校生のとき、読書感想文の宿題が出ました。読んだ本の解説部分から引用して感想文を仕上げ提出したところ、担任の国語の先生から「これは感想文ではありません。」と朱書きの指導が入ってしまったそうです。小中学校時代、感想文がどういうものであるか、どう書けばよいのか、一度も教えてもらった記憶がありません。そのとき、教員志望だった○○くんは、国語の先生になって子どもたちに教えられるようになるとうと心に決めたのだそうです。同窓会の折、担任の先生に、あのときのことがきっかけで国語の教師になりましたと報告したところ、当の先生は大変喜んでくれました。でも、自分が朱書きしたことについては全然記憶に無いと、笑い話になってしまったということです。

そのときそのときの「人との出会い」が、人生に大きな影響を与えるということはまあることです。褒められたことをきっかけにして、あるいは、否定されたことによって奮起し、自分の道を切り開く力を得ることもあります。子どもたちには、ぜひ人との出会いを大切にして、よく考え、自分で決めて、自分の人生を歩んでほしいと思います。そして、教師は、自分が子どもたちに与える影響を慮りながら、日々接していくことが必要であると考えています。